

寺報 善 巧

発行所 行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

寺
ごよみ

七 月

一日 お講 音沢
五日 浦山お経の会
七日 善巧寺婦人会
一二日 夢を語る会

(永代祠堂会)

一四日 午後一時 遠夜
一五日 午後一時 遠夜
一六日 午前十一時 お講
午後一時 遠夜

一七 午後一時 遠夜

一八 午後一時 遠夜

一九 午後一時 遠夜

二〇 午後一時 満座

この日は内陣法名の
前で焼香が行われま
すので施主は是非お
参り下さい。
☆バス運行は一六日と二〇日
の二回行います。

二二日 雪ん子劇団
二三 日 うらやま日校開校記念日
二八日 雪ん子劇団



伝灯のよろこびを味わった本山参拝団

永代祠堂会

法話 里村了学師

七月十四日～二十日迄

寺報「善巧」も発刊以来、門徒の皆様に可愛がられて、今回、十五号を出すことになりました。「三号誌」などと云う渾名があつて、同人雑誌等が永続しない例に用いられていますが、「善巧」の方は善巧寺と門徒がある限り、百号も二百号も途切れることなく続きますし、又、続かせねばなりません。先日、京都国立博物館で「西本願寺の秘宝展」が開かれましした。本願寺の今回の御法要を記念する特別展覧会で国宝八件を含む三百余点の大展観で、私も、一日を、見学に過ごしました。これらの展示の中で、私が一番惹かれたのは、蓮如筆「御文章草稿」でした。御承知のように、蓮如上人は、歿前の明応七年迄に二百余通の御文章をお書きになつています。その文章が簡易であること、真宗の要義を端的に叙述していること教義信仰の民衆化と統制に多くの効果を挙げている事、そして、本願寺と門徒大衆の間を結ぶ大きな架橋である事など、真宗門徒にとつて、「御文章」の持つ意義は、いくら評価しても、し過ぎることはないでしょう。その本ものの草稿の一字一字には、蓮如上人のお心の暖かみが伝わって来るような魅力がありました。

寺と門徒との情報伝達、それも浄

「寺報」15号を迎えて

土真宗のご法義を媒介としての文書伝道、教化活動。その手本を示して下さった「御文章」。寺報「善巧」の編輯方針も、正に、此の伝統の上に立つて歩んで来た筈であります。

生まれて十五号と云うと、まだまだ幼稚園でしょう。色々な面で、未熟なところ、思うに任せぬところが沢山あります。年四回の刊行に、印刷屋との交渉、原稿の依頼、沢山の写真の整理と、若院も八面六臂の大活躍です。

併し、新聞は読んで貰はねば何にもなりません。お寺参りのお爺さん、お婆さんは、活字に縁遠い日常でしよう。せめて、寺報の写真だけでも、毎号、目を通して頂きたい。更に、今日は、印刷物の氾濫の時代です。若い方々も、面倒臭さがらないで、寺報の一行一行から、何かのプラスを受取つて欲しい。

現在、寺報「善巧」は、全門徒、洩れなく、配布されている筈です。東京の門徒にも、富山市の門徒にも行つています。そして、皆さんからの反応も、追々、大きく、且つ、真剣になつて来つてあります。此の機会に、一層、寺報との触れ合いを密にするよう、切望致します。

(完)

伝 灯 奉 告 法 要

参 拝 記 念 グ ラ フ



万博会場のような御堂にいよいよ入場



法灯を継がれた第24代即如門主

若院も内陣へ出勤



厳しめくなおつとめ



金色に輝く御影堂内



会場せましと法輪音頭

寺
こよみ

八 月

- 一日目 お講 石田・生地・中新
- 四日目 善巧寺婦人会 雪ん子
- 八日 一泊聞法
- 九日 日校・夢を語る会
- 一二日 盆踊り練習会
- 一四日 盆踊り大会
- 一六日 音沢御助成会
- 一八日 雪ん子劇団
- 一九日 総代会 三法要の重要案件あり。ふるって参加を
- 三〇日 日曜学校

六月一日 曇 五時起床 團參出発の日。境内には、もう、「お早う」と交はし合う挨拶の声が聞こえる。白衣に着替えて本堂に行く。同行三十七名。音沢、浦山新、板沢、中新、浦山、下立、下村、板屋と各地域からの団員が、続々と参集。小生は、四月に既に参詣済なので、今回の團參は、若院、照行寺、法輪寺に一任の形。指定の時間に集合を終わって本堂にて讃仏偈。出発前の住職挨拶を受持つ。バスも定時に到着して、全員元気な顔で乗り込み、六時に京都をさして、スタート。富山教区全体の参拝に合流だから、大部隊だろう。法要参列は、明日の筈。一行の無事を願って、朝食の膳に就く。

今日は本来ならば、お講の日だが繰り上げて三十日に済ませた。常見寺から、教学校長が法話にわざわざ来て下さって、大盛況だった。天候の方は、午前中、泣き出したような曇り空。西日本では早々と梅雨入りを宣言している模様。書斎の整理。庭の樹々の緑が美しい。今年、冬の手入れも四・五月の灌水も、サボリ通して、四・五鉢の戴きもののサツキの鉢に蕾を持たない。愛情の足りぬ証拠と言われても一言も無い。



住職日記

次のように書かれてある。
「当学園は、児童福祉法第四十条に基づき精神薄弱児施設で、精神薄弱児を入園させ、これを保

護するとともに、独立自活に必要な知識技能を与えることを目的としている。」
今日は日曜日のため、三分の二の生徒は、親元へ帰っているとのこと。生徒達の間にはロータリーアン一名宛割り込んで食事を共にする。充分にスプーンが持てぬ児もいる。私の隣りの児は十八才。発音が明瞭でないが、とても人懐っこい。手を握って抱きしめてやり度い程である。四六時中、不幸な運命を背負った児等の世話につきまわりの保母さん達に感謝の意を表して学園に分れを告ぐ。帰院三時。
つばくらや 学園の児の列の上
此のあたり 著者の白さよ通園路

一日 善巧寺婦人会
六日 浦山お経練習会
一三日 夢を語る会
二〇日 浦山落語会
テレビでご活躍の永六輔さんがまったくのご奉仕で、地方に住む私たちに、本モノの芸を楽しんでもらいたいと、今年も超一流の芸人さんを連れて、やってきてくださいます。本当にようこそ、ようこそです。みなさん楽しんでもらいましょう。
二三日 日校・新米おにぎり大会
昨年の最高は十二個！さて、こ

としては、だれが、いくつ？



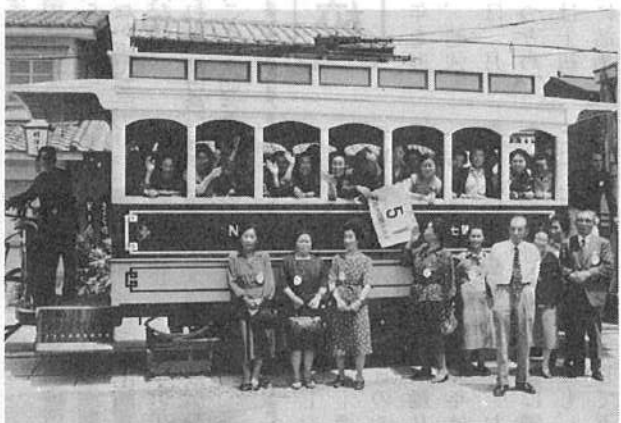
修復なった国宝「唐門」前で



大谷本廟で野外布教を聞く



納骨される門徒の方々



映画村 チンチン電車で

寺
ごよみ

九月

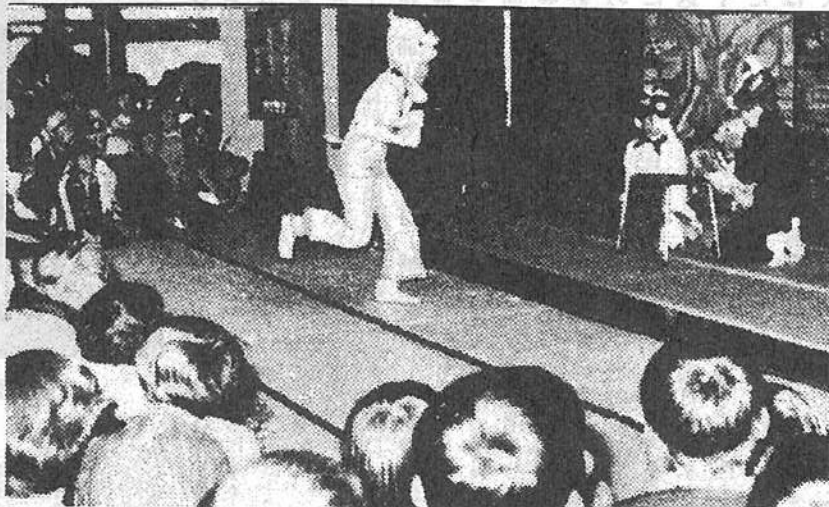
ついでにぎやか
善巧寺

右の読売新聞でご覧のように、雪ん子劇団は、県下でもはじめてのこどもの劇団の誕生ということで、うれしい評価をいただいています。

寺での旗揚げ公演のあとも、毎

☆雪ん子劇団

子供劇団「雪ん子」が熱演するミュージカル「なかまたち」



雪ん子劇団旗揚げ

宇奈月 善巧寺副住職夫妻が指導

チビッ子ミュージカルだ

下新川郡宇奈月町浦山で二十九日、児童たちだけで結成された劇団「雪ん子劇団」の旗揚げ公演が、月遅れの花まつりでにぎわうお寺の本堂で開かれた。上演されたのはいづれも子供向けながら力を含ませることを訴えた、歌あり、踊りありの立派な「ミュージカル」二幕で、動物のぬいぐるみをつけ舞台から客席に入り込んでの熱演ぶりに、お寺参りを兼ねたお年寄りや子供ら約二百人の見物人から盛んな拍手が贈られた。県内には大人のアマチュア劇団は数多いが、子供による劇団誕生はじめてで、間近に迫ったこどもの日にふさわしい話題。

「助け合い」をテーマに大熱演

雪ん子劇団が結成されたのは昨年十一月。同地区中央にある白雪三年一六年までの三十人。山善巧寺の雪ん子副住職三氏が、幸い雪ん子副住職は高校時代民族舞の放送劇団にいたと早速大演劇科の放送劇団にいたと早速大演劇科に参加する浦山小の児童約百人が、に学んだほどの演劇通。また金子富山弁の劣等感が強いため、発言力も三氏も結婚するまで地元のラジオ放送局のアナウンサーをして、ここに取り組んだ。

なっていることから言葉と、表現いたことから夫妻が先生になり、内容はいずれも、助け合いがテーマ。内容は、雪ん子副住職は「劇団の練習は今後も続け、さらに立派な演劇を公演し、演劇の楽しさを出演者、観客ともに味わうことで子供からお年寄りまでの地域のつながりを強めたい」と話していた。

☆日曜学校

週月曜日に集まって、基礎的なこととはの体操や、国語の教科書の読み方の勉強をつづけ、七月からはいよいよ、次の出し物の練習にとり組みます。

メンバーは一年から六年まで、合わせて三十人余り。みんな仲良く、元気に劇づくりにばげんています。

開校以来この七月で満三年を迎えます。遊びの会ではなく、勉強の会です。夏冬の休み以外は、月に一回のついでですが、おつとめとおはなしを中心に、近頃は上級生が中心となって、自主的に活動

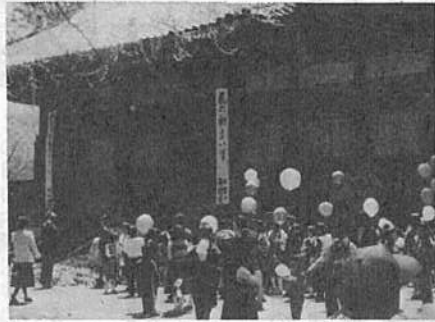
できるようにしてきました。そしていよいよ夏休み一週一回の集まりで、八月十五日のこども盆踊り大会をめざして、踊りのけい古もはじまります。今年には伝灯奉告記念の「法輪音頭」を、おばあちゃんやお母さんと一緒に踊ることになっています。あなたも、寺のこよみをみて是非参加して下さい。

マにしたもの。中でも「なかまたち」では、ウシやヒツジ、ブタ、ニワトリなど弱い動物と目ごころから対立している偉ぶるオオカミが、森の火事をきっかけに、いがみ合いを忘れ、協力して火事を消し止める友愛の心を演じた。

旗揚げ公演は、この日午前十一時から「うちの父ちゃんえらいんだ」を皮切りに一幕三十分ずつ上演されたが、かわいいうさぎのたにに拍手を受け、児童たちもこれにこたえて客席まで入り込んで歌を熱唱、これには観客全員も手拍子を打つなど会場も一つになって盛り上がった。無事初演を終えた三年生の中山大一郎君は、六年生の河村圭子さん（二才出演者）や舞台裏での道具係の仲間、大成功を喜び合っていた。

☆花の初まいり

恒例、花の初まいり——ことしは、チューリップの数も十二万個、二日がかりの花かざりで、パネル



盛況の花の初まいり

も前回の三倍にふえて、目くるめくはなやかさでありました。堂内では胸を打つことも私たちの初まいりの式。そして雪ん子劇団の公演。それが終わると境内は夢を語る会と婦人会のお世話で楽しい縁日。

今回はNHK TVの取材もあつて、ムードは大いに盛り上がり、田んぼの一番忙しい折にもかかわらず三百人もの老若男女が集まりました。

☆聞法旅行

京都本山への団体参拝とは別に今年春に、日帰り聞法旅行を催しました。県内の親鸞聖人ゆかり

じやないかしら。つまり、自分の管内だけは死亡事故のないようにと願っているが、隣りの警察のことは感知せず。いや、そつちより成績が良ければバンザイなんて気持ちあるんじゃないでしょうか。

一口説法

いろはにほへど

これはお巡りさんだけのことじやない。わたしだって、あなただって、命尊し、なんていつていいけど、結局それは、自分だけの命であつて、お隣りさんや、ライバルの命はどうなつたてかまわな

の寺や明教院ゆかりの寺をめぐる水見の国泰寺で、たけのこごはんを舌つづみを打ちました。なかでも、入善の持専寺さんへうかがつて善巧寺の百年以上前の



これが昔の善巧寺——入善持専寺

本堂にめぐり合つて、みんなビックリ。四角の柱をながめながら、「これにうちの先祖の念仏がしみ込んでいるんですね」と感慨無量でありました。浄永寺さん、三本柿の辻の寺——みなさんよくしていただいて、ほんとにありがとうございます。

☆花見の宴

寺のおつとめ練習会、それに婦人会、夢を語る会が一堂に会して仏舍利塔参拝・夜桜の宴を催したところ、たいへんな反響で、宮野山ハイツは大にぎわい。

全員で仏舍利塔前で真宗々歌と恩徳讃をうたい、このあとハイツ

んなことをおつしやつたお坊さんがいらつしやる。最初は、ナヌ!!と思つた。

いいことはいいいことで、悪いことは悪いことと決まっているんじゃないか、と思つた。あなたもそうでしょう。

ところが、仏教では善悪の表面ばかりを見るのではありません。その行為の奥にひそむ心までをも問題にします。そうしたらどうでしょう。いいことをしたときは、心の中に、してやったりの自慢の心、うぬぼれの心がムクムクとわいてきて、ハナもちならない。「一日一善!」もいいけれど、それ以上にわたしたちは、心の中で、

で宴会になったのですが、芸達者がズラリ勢ぞろい——花より演芸という感じでありました。「寺の催しにこんな楽しいものが出るとは……」とみんな大よろこびで、これからも月見の会やら、雪見の会もやりましょーということになりました。次回は、あなたも……。



宮野山ハイツの大宴会

毎日悪を重ねているんです。だから悪いことをしたとき、こんな私にだれがした、なんて居直るんじゃないくて、本当に悪かったと反省する心が出てくれば、それは、これからの善につながることにんだから、ひよつとしたら、いいこと、かもしれない、というんです。

いかがですか。このように考えてゆくと、世の中のことすべて、何が是か、何が非か、何が邪か、何が正か、まるでわからなくなってくるんじゃないですか。

しかし、それこそが大事なことです。わかつたような顔してるヤツに口クなのはいいないんだから。(若)

本堂修復工事始まる

五十七年度の三法要をめざして寺の事業は着々と進められていますが、六月末からいよいよ本堂の修復工事がスタートしました。

今回の工事は、庫裡と本堂の接続、床、壁、戸障子の改装、内外陣の電気配線、火災予防設備、押入れ新設等が主で、工事は門徒の大藪守さんが担当。七月の祠堂会までには完成の予定です。

この工事が終わると三法要の記念事業もいよいよ大詰めで、最後の内陣荘厳も、秋から手がけることができそうです。

ご寄進

☆揭示板 鉄骨組みは浦山の加藤友司さん。木工仕上げは魚津の森岡木工所さん。ペンキは野畑弘さん、三人の門徒の方の合作です。

これで行事のお知らせや、揭示伝道が難しく出来るよ



ところでその内陣荘厳ですが、巻障子やご本尊のお身ぬぐいなどは三法要の予算と内陣法名の特別懸志でなんとかなる見通しですが、道具類や金箔については、広く門信徒の方々にご寄進を願わないと思うにまかせないのが現状です。

今回の工事で本堂のうつわが万全になりますので、秋から来春にかけて、多くの方に御無理を申しあげるかもしれませんが、その節は、よろしくご協力を下さいますようお願いいたします。



うになりました。前をお通りの節は足を止めてみて下さい。

☆石垣花壇 三日市の大藪助雄さんと広島に住む姉の大藪昌枝さん。姉さんの懸志でみごとなサツキを十株求め、勤労奉仕で通りに面した石垣に。あとはサツキの間にいろいろな木や花を寄せ植えて、来年までには美しい花壇に仕上げるとのこと。

ご対面



お内仏の前で
中島さん(右)と鬼原さん(左)

六月のはじめ、ヒョッコリ大阪から、中島文吾さんがご来院。この方は、寺のお内仏の六字の尊号をお迎えする折に、なくなられた施主の広瀬精一さんと善巧寺の間に入ってご苦勞下さった方。

「一度、きれいになったお内仏に参らせていただこうと」と中島さん。

お内仏荘厳の寄進者、鬼原勝治さんとご対面されて「リッパになりましたね。うれしいです。富山

落語会

九月二十日に

お待ちかね「うらやま野休み落語会」は、九月二十日に催されることになりました。

これまでの落語会は毎年六月でしたが、永六輔さんが六月選挙でいそがしく、秋に延期ということになっていました。先月、東京で打ち合わせをした結果、九月二十日には決定ということになり、秋の収穫時ではありますが、ひとつ手を休めて、本モノの江戸の落語を満喫していただきたいと思えます。主催の夢を語る会の話では今回も、明治百円、大正二百円、昭和一ケタ三百円、二ケタ四百円の目安で、一席ごとにオモシロ代を集めることになりそうです。おさそい合わせの上、どうぞ。

夏の夜の一滴法座・善巧寺の

真夏の夜から朝にかけての善巧寺の一泊法座——今年は八月八日九日にひらきます。八日は午後八時から、浦山下村、板屋、下立愛本のお経の会連合、それに善巧寺婦人会、日曜学校合同のおつとめ。

“おつしやさま”に参りましょ

お話は利井明弘師(若院の兄)。翌九日は午前五時から早起き暁天講座と朝がゆの会。年々お仲間もふえています。おさそい合わせの上、泊りがけでお参り下さい。☆おまいりバスも運行します。

合掌

十五号を迎えた寺報「善巧」。近頃は地方の寺の方や、見ず知らずの信徒の方からも「送ってほしい」「わけてほしい」と好評です。そして、ときたまこんなことを聞かれます。

「どれくらい刷ってるのか」
「どれくらい、かかるのか」
あなたもこんなこと聞かれたことあるかもしれないし、また、これから聞かれるかもしれない。そのときのために、ここで少々内輪のお話を——

寺報「善巧」は五十二年正月に発行。発行部数は現在九百部。印刷費は四万五千円。原稿料取材費二万円。一部七十円ほどかかっています。三法要総務費からそれだけかけてつくっている寺報です。

どうか、ムダにしないよう、一人でも多くの人に見せてあげて下さい。寺報「善巧」は、あなたと寺を結ぶ大事なパイプ役なのです。

